第三者意見

特定非営利活動法人
循環型社会研究会 理事
山口 民雄
TAMIO YAMAGUCHI

山口民雄プロフィール 新聞社に25年勤務後、環境ベンチャー広報部長、出版社の環境誌編集主幹、大学の非常勤講師などを経てフリー。2000年よりCSRの研究に着手し、毎年350社の報告書を精査し、動向を発表。(http://csr-project.jp/)

循環型社会研究会 次世代に継承すべき自然生態系と調和した社会の在り方を地球的視点から考察し、地域における市民、事業者、行政の循環型社会形成に向けた取り組みの研究、支援、実践を行うことを目的とする市民団体。研究会内のCSRワークショップで、CSRのあるべき姿を研究し、提言している。(http://junkanken.com/)

動的なコミュニケーションを提供

統合報告書の読者は静的な報告ではなく動的な報告を期待しています。そのため、報告の柱は価値観―ビジネスモデル―事業の持続可能性・成長性を担保する戦略―ガバナンスとなるでしょう。本レポートでは、ジェイテクトの考え方―価値創造モデル、価値創造プロセス―各事業の今後の見通し、将来への取り組み―環境、社会のガバナンス、コーポレート・ガバナンスと期待に応える構成となっており、動的なコミュニケーションを提供しています。ただ、価値創造に関し、いわゆる6つの資本(財務、製造、知的、人的、社会・関係、自然)についての記述がないのが残念です。貴社の各資本の強みや今後の増強の見通しなどが示されると、中長期の価値創造について読者はより確信が持てるのではないでしょうか。

ESG経営の実像報告を期待

本レポートで印象に残るのが「ESGに配慮した経営」を推進していくとのコミットメントです。こうした経営はESG経営と称され、2017年版のレポートにも散見されるようになりました。2016年がESG投資元年であり、ESG投資がメインストリーム化する中で非財務的な取り組みを財務と統合、向上させていく経営は社会が期待するものであり、多くのステークホルダーがその行く末に注目することは必至です。ぜひ、本レポートにおいてESG経営の実像を継続的に報告してください。統合報告書は財務と非財務情報の結合性が求められていますが、ESG経営の実像を報告することは、結合性を報告することにほかなりません。

また、本レポートではこのESG経営の底流にあるのが「健全な危機感」と「企業価値の共創」であることが伝わりました。いずれも、数多くの社会課題が山積する中で企業が持続的発展を実現するために重要な視点と感服しました。

SDGsを活用してESG経営を盤石に

「価値創造モデル」では、SDGsと貴社が提供する社会価値とのマッピングが示されました。SDGsの取り組みは、これが第一歩であり重要ですが、SDGsの169のターゲットにはビジネスチャンスが満載です。モデルには「新しい課題を発見」とのプロセスが記載されています。ぜひ、次の一歩としてこのプロセスにSDGsを活用し、ESG経営を盤石にしていただきたいと思います。

第三者意見を受けて
株式会社ジェイテクト 経営管理本部 経営企画部

当社にとって2回目の統合報告書となる『ジェイテクトレポート2017』を発行することができました。まずはこの場をお借りし、本レポート制作に携わりご協力をくださいましたすべてのみなさまに、厚くお礼申しあげます。

さて、本年、年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)が受託者責任を果たすことができる投資手法として、ESGを指標の一つとして組み入れました。企業価値の向上を目指す上で、ESGを基点とした取り組みの大切さとその高まりを改めて感じております。

このような環境のもと、当社では2017年3月に企業価値の創造に向けた実践モデルとして、価値の向上を着実に体現させるべく「マネジメントモデル」を構築。また、ステークホルダーと対話を重ね、社会と価値を共創するための「エンゲージメントモデル」を整備いたしました。さらに、ジェイテクトがジェイテクトたりうる価値を明らかにするために、その価値の源泉である「価値づくり」「モノづくり」「人づくり」の意図を掘り下げ、併せて「価値創造モデル」の見直しを行いました。当社の企業価値向上に向けた意図や姿勢をより多くの方にご理解いただければ幸いです。

一方でこのほど、山口先生よりご指摘を頂戴した価値創造に関する「財務」「製造」等6つの資本については、ステークホルダーのみなさまとの対話をより充実させるためにも有用なアプローチとして認識しております。今後も持続して価値を創造し、社会にその価値を提供できる企業として成長すべく、ステークホルダーのみなさまとの対話を継続してまいる所存です。